

伐期における生産目標と収穫予測

小坂 淳 一*

森林計画等における現実林の資源予測(生長・収穫量)は、地位指標とされる平均樹高生長、生育段階別の平均密度傾向をもとに、これらに対応する各種林分形態を推定して行なうことが多い(現実林分材積表、現実林分収穫予想表)。

一方、施業林の生育に伴う適正な林分構造指針として、正常林分(基準林分)を想定した林分収穫表が作成され、生産の目標林或は理想林型と考えてきた。

近年、各地域において林業振興を図るため自然的条件による地域区分に加え、社会・経済的条件を考慮した一定の広がりを持った林業圏域を設定し、その中で技術の体系化、生産予測、産地化、個別経営の改善方策等の検討が進められている。このため各地域での生産目標を明確にし、木材の用途に応じた山作りと生産技術の確立が急がれている。

このような背景下で今後測樹分野で必要と思われる生産予測手法は、生育環境に応じた施業目標や生産材目標の確定、現実林を目標林型に誘導するための施業体系と、これから生み出される生産物の生長・収穫予測問題等であろう。

従来調製された正常林分収穫表は、地域ごとに同一の施業取扱いを受けた、林分諸要素の標準的な値を地位別に示したもので、その活用は施業目標の多様化に対応しなく、新たな調製が求められている。

各林業地では一定の調製手法が確立されないまま、その多くは収穫予測を専門とする測樹関係者以外の手で、地域特性を重視した生産目標の決定と、現実林型の理想林型への誘導法及び収穫予測法が、試行錯誤的に進められ地域林業振興の指針にされている。

以上に対応する測樹関係の基礎研究は

- ① 各種林分構造別の生長・収穫予測問題
- ② 林業の生産期間の大部分を占める密度管理が、下層木主体から間伐材の経済性を重視した密度管理への変化に伴う生長・収穫予測問題
- ③ 林業の再投資停滞による長伐期化と良質大径用材生産の施業法及び生長・収穫問題
- ④ 更には最近注目をあびている広葉樹林の取扱法と伐採・収穫予測問題など

今後の林業推進にあたりきわめて関心の高い事項が該当し、現状の研究成果のなかから適確な答えを提供することはむずかしく、早急な手法開発と現場への応用化が求められる。

以上の視点から、林業現場により近く、現実の林業動向に併せた研究活動を行なっている、当

*森林総合研究所東北支所

研究室の生長・収穫予測関係の研究の中から話題を提供し、優先的に着手すべき測樹研究のあり方を考えたい。